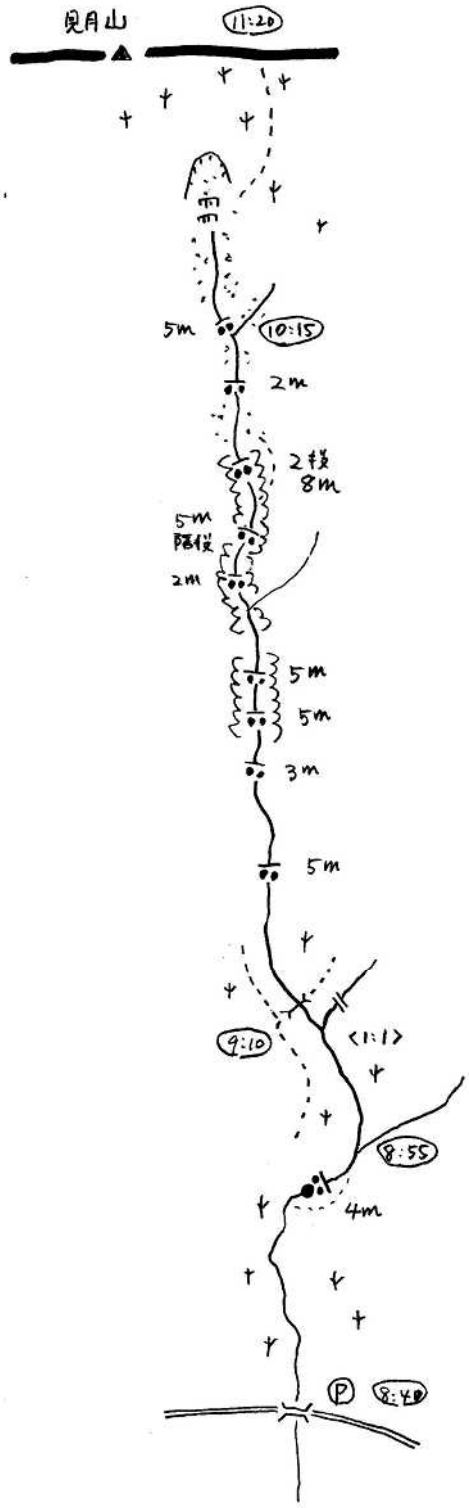
安倍川支流／中河内川・堀沢

遡行日：09年3月29日
メンバー：三井（単独）

今年も 3 月の月末、自身の今シーズンの沢の幕開け。
行き先はこの時期恒例となっている安倍奥から「堀沢」をPU。
「堀沢」Who？　安倍奥山塊の前山、というべき「見月山」のその西面に位置する沢。見月山が1000mを僅かに超える程度の低山で、その山に依拠する沢となれば沢登りの対象としては？で、当然記録もない。地形図を見ても期待はできそうなものはない。
「なら、どうして…。」と言われそうだが記録がないって事は“何があるか分からない”という沢特有の面白さが味わえる、って事。勿論「スカ」の可能性だって大有りの訳だけれどそれもシーズン前の足慣らしと思えばいいし、むしろ今年もこうして沢に入れる事に感謝したい。

「堀沢橋」の脇の空き地に車を止め、沢の支度。着替えにはまだ肌寒い。
沢は桧の植林帯の間を水量の少ない小沢となって流れている。まだ水流の中をジャブジャブと歩く気はなれず飛び石で進む。何もないような感じ。テンションがじりじりと下がる。
暫く進むと 4mの滝。滝の 1 本もない沢だったら…、の危惧は回避される。
二俣を過ぎ暫く進んでいくと突然目の前を黒い物体が飛び退る。
「何か」と思って目を凝らすと小振りの「カモシカ。」それほど人家から離れている場所ではないのだが…。
この後もカモシカの足跡やら糞やらまたカモシカそのものも目撃したがこんなに生息しているとは思わなかった。以前はこんな事はなかったと思うのだが。
5mの滝を越え、前方に目をやるとゴルジュっぽくなっていて中に連瀑が見える。「えー、マジかよ。」思わずニヤリ。
テンションも上がる。登れば面白そうなものもあるが「まだ濡れると寒いしなぁ。」などと言い訳をつぶやきつつ巻き上がり通過していく。
しかし、愉悦の時間は長続きはしなかった。そこから再び河原状になり奥の二俣を滝のある左にとると間もなく沢はガレの中に消える。
急なガレを暫く登ると土砂の流失防止なのだろう、ブロック状に石が積み重ねられている。これまでか。
潅木帯に入りツメていくが意外に足元がザレていて登り難い。
傾斜が緩み、植林帯に入るとまもなく稜線に上がる。ピークから僅かに南に下った辺りだった。
さて下山。ルートは特に決めてはいなかったがとりあえずそのまま稜線を南下、顕著なコルに出たところで沢に下ろうとすると右の尾根に薄っすらとした踏跡がある。何処へ下っているか分からないが何処に出ても大差はなかろう。ありがたく利用して下れば1時間と少々で無事車に帰着。

今年はどんな沢と出会えるのか。様々な出会いをじっくり楽しみたい。



09年3月29日
宇佐川支流 中河内川／堀沢